



第32回栃木県民福祉のつどい

第32回

栃木県民福祉のつどい

令和8年8月27日／栃木県教育会館

県の社会福祉の発展に功績のあった福祉関係者を表彰し、感謝の意を表し、参加者が自らの活動への意欲をより高める機会とするため開催されました。本年度も表彰対象者の参加をもって式典が行われました。

県民福祉宣言

私たちは、ふるさと「とちぎ」で暮らす全ての人々が、一人ひとり自立し、お互いに支え合い、助け合いながら、安心して、また、誇りを持って住み続けることのできる地域社会づくりを目指し、

「子どもを健やかに生み育てる環境づくりの推進」、「人と地域の輪を広げ、ひとり親家庭への自立支援」、「高齢者の健康と生きがいづくりの推進」、「障害者の自立支援と社会参加の促進」、「共同募金やボランティアなどの民間福祉活動への参加と協力の推進」に積極的に取り組みます。

そして、ここに集う私たちをはじめ、本県の福祉関係者が一致協力して、県民の福祉に対する認識と理解を一層深め、ともに生きる豊かな福祉社会の実現に努めることを宣言します。

栃身連

第162号

発行所

一般財団法人

栃木県身体障害者福祉会連合会

宇都宮市若草1丁目10番6号

とちぎ福祉プラザ2階

発行人 前田 則 隆

TEL 028-624-8408

FAX 028-624-8418

栃木県知事表彰

障害者自立更生者

宇都宮市 永田 義美

栃木市 木村 洋子

大田原市 蓮實 光生

障害者支援功労者

宇都宮市 宮下 陽子

栃木県身体障害者団体連絡協議会会長表彰

自立更生者

宇都宮市 高柳 昭子

栃木市 長谷川 勇

栃木市 大阿久 正男

大田原市 磯 恭一

那須塩原市 高橋 亨

塩谷町 田代 ツヤ

更生援護功労者

宇都宮市 上野 芳男

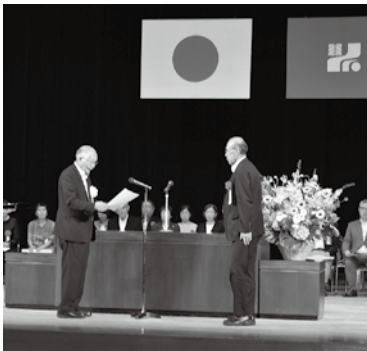
宇都宮市 デフ・みやの会

代表 大島 英子

市貝町 小峰 ツヤ
壬生町 平石 二美夫
塩谷町 今井 洋子
(敬称略)



自立更生者代表 高橋 亨氏



更生援護功労者代表 平石二美夫氏



以上、障害者関係の受賞者15名の皆様、おめでとございました。

令和8年度第1回栃身連研修会

令和8年7月1日
とちぎ福祉プラザ

「チョークで叶えた夢と未来」
～学年じりだった私が起業して

国際アーティストになった理由～

チョークアーティスト

堀田実希

チョークアートで使用するチョークは、オイルパステルというクレヨンのようなチョークを使うため、簡単に消えることはありません。

私がチョークアートに出会うきっかけとなったのは14年ほど前のことです。高校時代は将来の夢が見つからず成績も最下位、卒業後は父親の勧めもあり管理栄養士の資格がとれる大学に入ったものの、勉強についていけず3年で中退しました。将来の見通しもたえずモヤモヤを抱えていたある日、雑誌で「チョークアート留学」の文字とチョークで描かれた鮮やかな作品の数々が目に飛び込んできました。見た瞬間、これだ！と、私はこれで生きていきたいと直感的に思いました。まずは語学力をつけるために一年間ニュージールランドに留学、その後、オーストラリアにあるチョークアート考案者モニーク・キャンノンの学校で2か月間学びました。講師の資格をとって帰国し

たものの、ビジネスの知識もお金も人脈も何もない状態でした。最初は手探りでアルバイトをしながらどうにか続けていましたが、何かとトラブルに見舞われ、多額の借金を背負いました。何度か「もうダメかもしれない」と思う瞬間がありました。それでも、諦めずに行動し続けたことで道が開け、今ではチョークアートスクールを運営しながら国内外でアート活動を展開しています。

チョークアート
デモンストレーション
ライブペイント



令和8年度第2回栃身連研修会

令和8年9月2日
とちぎ福祉プラザ

「栃木県の障害者福祉施策」

栃木県保健福祉部障害福祉課

主査 八角飛雄馬

栃木県の障害者福祉施策全般にわたり、幅広く説明をいただきました。栃木県障害福祉課では、企画推進担当内の地域生活支援チーム、社会参加促進担当、福祉サービス事業担当、精神保健福祉担当がそれぞれの施策を分担して行っています。

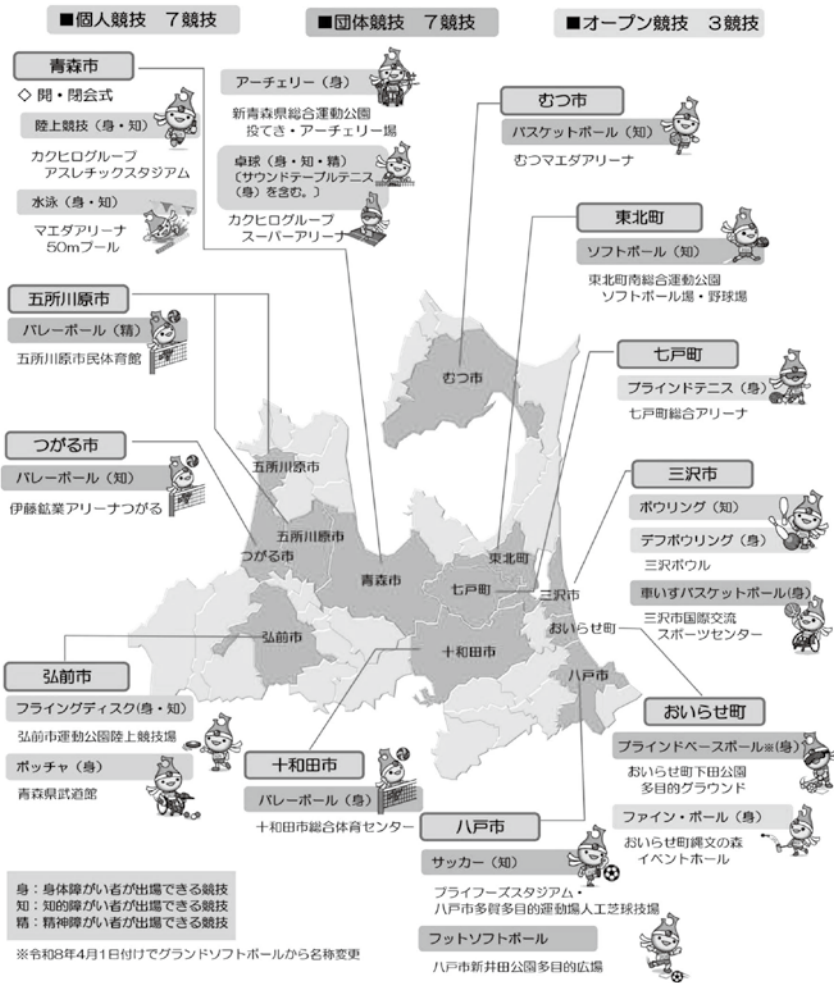
日本では障害者権利条約の批准に向け、障害者基本法、障害者総合支援法、障害者差別解消法などが整備され、2014年の批准を契機に、障害者の虐待防止法や障害者情報アクセシビリティコミュニケーション施策推進法等、様々な法律の整備が進んできました。

栃木県障害者差別解消推進条例では、障害のある方も地域社会を構成する多様な人々の一員であるという認識を基本としており、障害者差別解消というものは、特定の機関だけで進めるものでなく、県民、事業者、行政などが協力をして進めることが重要であることを定めています。

障害者の定義は、手帳所持者に限らず、社会的障壁によって日常生活や社会生活に相当な制限を受けている方が対象となります。令和4年時点の全国推計では、障害児者の総数が人口の9.3%を占めています。その中でも近年は特に精神障害者の数が増加傾向にあります。令和8年4月1日現在、栃木県の手帳交付総数は約11万2千人、内訳は（身体）約6万9千人、（知的）約2万1千人、（精神）約2万2千人です。発達障害、高次脳機能障害、難病などで手帳のない方もいるため、支援ニーズ把握には手帳交付者数だけでは捉えきれない点に留意が必要です。

栃木県障害者プラン21は、障害者基本法に基づく障害者計画で、施策全般の方向性を定める指針です。次の3つのテーマが定められています。1「共に生きる栃木をつくるために」については、障害者理解の促進、差別解消、虐待防止など共生社会の実現に向けた施策、2「栃木で安心して生き生きと生活するために」については、生活環境の整備、防災、防犯、保健、医療、支援、就労、教育など地域生活を支える施策、3「人がつながる栃木であるために」については、スポーツ、文化活動、社会参加促進に関する施策となっています。

競技会場 (あおり障スポ HP 参照)



2026年10月23日～26日

開会式・閉会式
マエダアリーナ (青森市)

青の煌きあおり障スポ
第25回全国障害者スポーツ大会

青森県においては、全国的な障害者スポーツ大会としては昭和52年の第13回全国身体障害者スポーツ大会以来49年ぶり、全国障害者スポーツ大会としては、初めて青森県で開催される第25回全国障害者スポーツ大会です。栃木県では、身体・知的・精神の選手34名が派遣されます。その内、身体障害者16名の選手は下記のとおりです。この大会が最高の思い出となりますよう健闘を祈ります。

栃木県派遣選手 (身体障害者)

No	参加競技	氏名	所属または居住地	障害	No	参加競技	氏名	所属または居住地	障害
1	陸上競技	オオノ リュウセイ 大野 龍生	栃木県立 のぞわ特別支援学校	肢体	9	アーチェリー	トキタ マサユキ 鴫田 将之	日進テクノ(株)	肢体
2	陸上競技	イン ナミツ タカ 印 南光	多機能型事業所はな	肢体	10	卓球	オオモリ ヨシヒト 大森 義仁	まつや呉服店	肢体
3	陸上競技	ヤノ ケンシン 矢野 紇心	栃木県立 鹿沼東高等学校	視覚	11	卓球	アサクラ リョウタ 朝倉 涼太	栃木県立聾学校	聴覚
4	陸上競技	クボタ ノア 久保田 望心	栃木県立聾学校	聴覚	12	フライングディスク	ヨシハラ ミユ 吉原 未優	(株)8就労継続支援 A型事業所えいと	肢体
5	陸上競技	イチ ダ ケイイチ 市田 敬一	栃木県立盲学校	視覚	13	フライングディスク	ウエキ シンジン 植木 真仁	佐野市	肢体
6	水泳	オチアイ ユカリ 落合 有佳利	自然派ボディケア サロン CHEER	肢体	14	フライングディスク	コグチ マサフミ 古口 正文	宇都宮市	肢体
7	水泳	コハ ムロゲン キ 小室 元気	(特養) ころぼっくる	肢体	15	ボッチャ	アカガワ タカキ 赤川 尚希	(NPO) SOLTURO	肢体
8	水泳	キイ ヒロシ 喜井 寛	キヤノン(株)那須工場	聴覚	16	ボッチャ	シマダ リンコ 島田 林檎	オートテクニック ジャパン	肢体

国際アビリンピック フィンランド大会

国際アビリンピックは、障害のある方々を対象とした職業技能を競う国際大会です。1981年の「国際障害者年」を記念して、日本からの提案により第1回大会が東京で開催され、1991年には国際アビリンピック連合が発足し、現在、加盟団体は54か国・地域に及んでいます。大会はほぼ4年ごとに開催されており、日本からは地方大会、全国大会を経た成績優秀者を独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構（JEED）が派遣を行っています。第11回国際アビリンピックは来年の2027年5月にフィンランドのヘルシンキにおいて開催され、日本からは17種目に選手が派遣される予定です。前回の第10回国際アビリンピックフランス大会では、日本選手30名が参加し、金賞1、銀賞4、銅賞3の成績を収めました。同大会の様子はYouTubeでぜひご視聴ください。

JEED 独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構

URL:<https://www.jeed.go.jp>

協賛・応援
大募集！

国際アビリンピック 検索

国際アビリンピック日本選手団派遣事業では、企業・団体の皆さまの協賛を募集しています。世界に挑む日本代表選手たちへ皆さまのご支援をお願いいたします。

ご協力内容は報告書等でご紹介

#Abilympics フォロー&リポスト&シェア大歓迎

栃木県身体障害者福祉のつどい

本年度、第31回栃木県身体障害者福祉のつどいを以下のとおり開催いたします。参加のお申し込みについて、各市町福祉会に所属の方はそれぞれの福祉会をとおしてお申し込みをお願いします。所属されていない方は当会宛お申し込みください。

【開催日時】 令和8年12月5日（土）

午後1時30分～3時

【開催場所】 とちぎ福祉プラザ 多目的ホール

式典終了後、午後2時から講演会を行います。

《講師》大沼美雄氏（郷土史家）

《演題》大関 和の生涯

～NHK連続テレビ小説「風、薫る」

主人公のモチーフになった大関和の功績と実像～

大関和は大田原市（旧黒羽町）の出身であり、日本近代看護の歴史に名を残す「明治のナイチンゲール」として知られています。大沼美雄氏は大関和と同じ旧黒羽町出身で、郷土の歴史・文化研究の第一人者です。那須短期大学や那須看護専門学校で教鞭を執るかたわら、各地で多くの講演を行っています。

J R ジパング倶楽部特別会員

身体障害者手帳では割引とならないJRの特急券、グリーン券、指定券など、片道で101km以上ご利用の場合に割引となるミドルからシニアの方を対象とした購入割引制度です。ただし、新幹線「のぞみ」や「みずほ」などの切符や割引にならない期間がありますのでご注意ください。

加入資格	身体障害者手帳をお持ちの方 男性60歳以上、女性55歳以上
年会費	1,400円
新規申込	初回3回使用までは2割引 4回目以降は3割引になります。 入会申込書と身体障害者手帳のコピーは郵送、年会費は銀行振込でお願いしています。 詳細はお問い合わせください。
更新申込	継続の方は引き続き3割引 お手続きは年会費のお振込のみで完了です。 住所や電話番号が変更の場合はご連絡ください。

栃木県身体障害者福祉会連合会

〒320-8508 宇都宮市若草1-10-6

(TEL) 028-624-8408 (FAX) 028-624-8418

(E-mail) toti-sin@juno.ocn.ne.jp

休業日／日曜日・月曜日・祝日

栃木県障害者福祉ガイド2026年度版

栃木県公式ホームページにPDFファイルが掲載されていますのでご活用ください。

栃木県障害者福祉ガイド2026

検索

赤い羽根共同募金運動

「赤い羽根共同募金運動」は毎年10月1日から翌3月31日までの期間に全国一斉に実施される募金活動ですが、お近くの各市町社会福祉協議会においても年間を通じて募金を受け付けています。

この機関紙は
赤い羽根共同募金配分金
により発行しています

